

たくましく生きる力と豊かな心を持った児童の育成 ～大口町立大口北小学校の実践から～

子供を知るために

Q-U講座で子供、学級の様子をキャッチ



Q-Uの見方を学ぶ講座を、講師招いて行っている。子供の姿を分析的な目で捉え直し、「自分が好き」「相手が好き」と思える学級づくりを目指して、教員も学び合っている。

わいわいタイム



子供の下校後に「わいわいタイム」と称し、職員室でミニ研修会を行っている。子供の情報交換や学級ですぐに生かせるSSTの研修を行っている。
何でも話せる明るく温かい職員室の雰囲気が子供理解のベースとなっている。

子供の主体的な活動のために

北小“Small Talk”で対話力アップ



低学年から取り組み、系統性をもって対話力の育成に努めている。対話の楽しさ、難しさを味わいながら、子供は認める、認められる相互の体験を積み重ねている。

対話力の高まった子供は自らの考えを伝えようと、意欲的に授業に参加している。

子供の活躍を認めるために

北っ子学習発表会



総合的な学習での追求の成果を発表する北っ子学習発表会。考えを伝えることが好きな子供たちが、張り切って自分たちの追求の成果を発表していく。

見に来てくれた人たちにちゃんと伝わったみたい。うなずいて聞いてくれてたよ。

異学年集団での活動

「低学年の子供は高学年の子供のまねを、高学年の子供は低学年の子供のお手本に」そんな当たり前の日常の中にも、温かな関わりが生まれている。

今日は、ほうきの持ち方を教えるよ。みんな一生懸命でうれしいよ。先生から「教え方が丁寧だね」とほめられたよ。



お兄さんがわかりやすく教えてくれたので、掃除が上手になったよ。家でもやってみよう。

「バックワードデザイン」による授業づくり

単元終末に目指す子供の姿を具体的に想定した上で単元を構想している。（バックワードデザイン）学びの必然性を意識することで、子供の主体性を大切に単元構想を組むことができ、意欲的に活躍する子供の姿を生み出している。

地域と共に子どもの成長を支え、喜ぶ

【大口町の伝統文化（総合的な学習の時間3年）】ふるさと大口をもっと知り、もっと好きになってもらうこと、そして鍛えてきた「話す」「聞く」力を実践する場として、地域の伝統に触れる体験を行っている。

話すことに自信をもって、堂々と地域の方と話をする子供の姿が見られる。地域の方も落ち着いた子供の物言いをほめ、認めてくれている。顔が見え、実物に触れての交流は、子供の活動の幅を広げ、追求意欲を高めている。地域への興味、愛着を深めるよい機会となっている。



子供の真剣な表情が頼もしい。この子たちが引き継いでくれるならもっと頑張らなければいけないな。

地域の方が子供の頃からこの山車はあったんだ。もっとこの町のことを教えてもらいたいな。

自己有用感・自己肯定感を高め、 絆を感じる集団づくりの在り方

ぎすな

学校は、どの子供も安心して過ごすことのできる温かい居場所でなければなりません。どの子供も認められ、自信をもってできることを増やし、仲間と共に生きる力を育てていくことができる、どの子供も通いたくなる魅力ある場所であることが大切です。

魅力ある学校であるためには、そこに過ごす子供が、自己有用感・自己肯定感を高めることが大切です。そして学校・学年・学級が、絆を感じる集団であることが大切であると考えました。

そこで、本リーフでは、魅力ある学校の実現を目指して、「自己有用感・自己肯定感を高める」、「絆を感じる集団を育む」ための五つの視点を紹介します。

自己有用感・自己肯定感を高める

他人から認められた、自分は役に立っているという「自己有用感」と、自分のことが好きであるという「自己肯定感」をバランスよく高めていく必要があります。

視点1

どれだけ子供のことを理解しているか

視点2

子供が認められる機会を大切にしているか

温かい
居場所

魅力ある学校

どの子供も
通いたくなる学校

視点3

「共に伸びる」を意識した教育活動となっているか

視点4

「主体的な活動」を導き出せているか

視点5

子供同士が活躍を認め合える場を用意できているか

互いをよく知り、それぞれの力を発揮しながら、尊重し合い、共に成長する喜びを実感し合える仲間である「絆を感じる集団」を育む必要があります。

絆を感じる集団を育む

自己有用感・自己肯定感を高める

視点1 どれだけ子供のことを理解しているか

ポイント1

子供の今の姿を捉えよう

- ・子供の表情、声、服装等、子供の小さな変化も敏感にキャッチできるよう、常にアンテナを高くしていきましょう。
- ・学級の全ての子供と対話ができるように時間をつくりましょう。
- ・Q-Uテストやクレペリン検査等の心理テストや、生活アンケート等を活用し、子供の今と支援方法を知る手がかりとしましょう。

ポイント2

結果をほめるより、その過程を理解し、認めよう

- ・目の前の子供を肯定的に捉えましょう。
- ・子供に寄り添い、結果だけではなく、成長の過程を見るようにしましょう。
- ・的確なタイミングでの温かい声かけで、わかってもらえているという安心と自信を子供に与えましょう。
- ・教員の関わり方や内容から、子供は他者との関わり方を学んでいると心得ましょう。

ポイント3

これまでの生活の様子を知り（引継ぎ）、職員間で情報の共有を図ろう

- ・子供のよさや背景も含め、丁寧に情報の引き継ぎをし、子供への切れ目ない支援を維持しましょう。
- ・いじめ不登校対策委員会等の各種会議や校務支援システム等のデータを活用し、情報の共有を図りましょう。
- ・個人で情報を抱え込まず（抱え込まず）複数の目で子供を捉えるようにしましょう。

がんばったけれど、まだ逆上がりがかうまくできないな。



ずっと休み時間に練習しているね。あきらめずに練習している姿は本当に立派だよ。

視点2 子供が認められる機会を大切にしているか

ポイント4

他を認める雰囲気を生みだそう

- ・よいところみつけ、感謝状の交換等、友達のよさを見つける機会をつくりましょう。
- ・教師が手本となるような認め方を心がけましょう。
- ・帰りの会で紹介するなど、どの子供も認められているという実感が味わえる機会をつくりましょう。

私って、こんな風に思われてうれしいな。

Aさんは1年生の給食のお手伝いしてくれているんだってね。孫が喜んでたよ。

えっ、知ってるの？ちょっと恥ずかしいけど、頼られるのってうれしいなあ。



ポイント5

子供のよさを保護者、地域と共有できる体制を構築しよう

- ・健全なる子供の育成には地域と共に子供を育むことが大切であるということを意識しましょう。
- ・学校の目標を地域と共有し、開かれた学校・開かれた生徒指導の実現を目指しましょう。
- ・学校新聞やHP、行事等を活用し、子供が今、力を入れて取り組んでいることを地域の方にも知ってもらいましょう。そして地域の方にも子供を共に応援するサポーターになってもらいましょう。

温かい居場所

魅力ある学校

どの子供も通いたくなる学校

絆を感じる集団を育む

きずな

視点3

「共に伸びる」を意識した教育活動となっているか

ポイント6

グループで話し合う目的を明確にしよう

- ・子供にどのような力をつけるために話し合うのか、目的を明確にしましょう。
- ・活動前と活動後の子供の姿を具体的にイメージし、計画を立てましょう。
- ・個人の中に伝えたい思いを醸成した後に話し合いを行いましょう。

私は……と考えているんだけど、みんなはどう？みんなの考えも知りたいな。



Bさんの話を聞いて、自分の考えが少し変わってきたぞ。



視点4

「主体的な活動」を導き出せているか

ポイント7

教師の「させたい」を、子供の「やりたい」へ変えよう

- ・必然性のない活動は子供を受け身にします。自らやりたいという子供の前向きな気持ちを生むために、活動に連続性・必然性をもたせましょう。

ポイント8

子供の「自分たちでやるんだ」という気持ちを支えよう

- ・明確な目標をもって活動に向かうように促しましょう。
- ・集団の目標（学級目標等）を丁寧に決め、常にその目標や改善点を意識させましょう。

視点5

子供同士が活躍を認め合える場を用意できているか

ポイント9

振り返りの場を大切にしよう

- ・活動後のアンケートや振り返りをする際、友達と読み合ったり、コメントを書き合ったりする活動を取り入れる等、自分の変化・成長、そして、友達の変化・成長を感じ合うことができるようにしましょう。
- ・「がんばってよかった」の実感や喜びが、次の活動への意欲・成長の連続につながる大切な思いであることを意識しましょう。

Eさんのがんばりがすごかったね。

みんなで挑戦したからとても楽しかったよ。



今回はGさんを助けられてうれしかった。

Fさんがくれたアドバイスのおかげでうまくいったよ。

「スクリーニング」を実践したA中学校の事例

A中学校では、「誰一人取り残すことなく、すべての生徒が自立に向けて一步一步成長できる学校づくり」を重点努力目標の一つにしています。これを実現するための取組の一つとして、「スクリーニング」を実施しました。

スクリーニング・シートの工夫

A中学校には、1学年あたり7クラス、約250人の子供が在籍しています。このため、各学年に関わる学級担任、教科担任等も多くいます。そこで、スクリーニング会議を短時間で効果的に行うことを考慮し、次のような工夫をしました。



A中学校のスクリーニング・シートはこちらからダウンロードできます。

	学級担任が入力				各教科担任が入力																学級担任＋学年の教員で入力								総合点			
	欠席 (点)	遅刻 (点)	早退 (点)	保健室 来室 (点)	国語		社会		数学		理科		音楽		美術		保健		技・家		英語		学級の様子									
					1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	身なり	忘れ物	行事		反応	給食	部活動
1101	〇〇	〇〇			1																											
1102	□□	□□	2	2	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1		1		1	2		2	1	1	2	●	1		2	1		2	
1103	△△	△△		2							1	1						1	1		1						1			1		
【工夫①】欠席等を数値化 「総合点」でチェックできるように、欠席、遅刻、早退の日数や保健室来室の回数を数値化しました。 10日（回）以上…2点 5日（回）以上…1点																																
【工夫②】多くの目で見る すべての教科担任から情報を集めました。 ① 授業での取組の様子 ② 忘れ物等 ③ 成績の変化																																
【工夫③】効率化を図る 身なり、忘れ物、行事への取組、挨拶や会話の反応、給食の食べる量等の8項目に精選しました。																																
【工夫④】「気付き」を簡単に示す 教師の「気付き」を迷わず表現できるように、入力を2段階とし、成長や改善は●で表すようにしました。																																
1117																																
1118																																
1119																																

【A中学校が作成したスクリーニング・シート】

【工夫①】欠席等を数値化

「総合点」でチェックできるように、欠席、遅刻、早退の日数や保健室来室の回数を数値化しました。

10日(回)以上…2点
5日(回)以上…1点

【工夫②】多くの目で見

すべての教科担任から情報を集めました。

- ① 授業での取組の様子
- ② 忘れ物等
- ③ 成績の変化

【工夫③】効率化を図る

身なり、忘れ物、行事への取組、挨拶や会話の反応、給食の食べる量等の8項目に精選しました。

【工夫④】「気付き」を簡単に示す

教師の「気付き」を迷わず表現できるように、入力を2段階とし、成長や改善は●で表すようにしました。

大変気になる…2点
気になる…1点
成長や改善…●印

スクリーニング会議の実施

学年会議の時間を利用して、スクリーニング会議を行いました。会議の流れと参加した教師の声を紹介します。

スクリーニング会議の流れ(1学級10分×7学級 計70分)

- ① スクリーニング・シートをもとに、各学級10分で、気になる子供について意見交換を行う。
- ② ケース会議等を行う必要がある子供を確認する。



「総合点」が30点を超えるような子供には、すでに何らかの支援がされていました。10点前後、または、それ以下の子供にも目を向ける必要があると感じました。



「スクリーニング」のデータが蓄積されていけば、次年度への引継ぎの際に、子供の状況や教師の気付きをより明確に伝えられると感じました。繰り返し取り組んで行きたいです。



教師によって見立てが異なっていることが分かりました。今後は、他の教師の視点も取り入れて、子供を見つめたり、語りかけたりしてみようと思いました。



スクリーニング・シートの項目を変更したり、配点に軽重をつけて4点の項目を作ったりすることで、より本校の実態に合った「スクリーニング」になると感じました。

すべての子供の居場所となる学校教育の推進

～「スクリーニング」を活用した未然防止・早期発見のための取組を通して～

学校は、子供の困り感を含めた今の状況をとらえようと、教育相談や生活アンケート等、様々な取組を行っています。子供が主役となる学校を実現するためには、「どれだけ子供のことを理解しているか」が極めて重要です。

そこで、本リーフでは、教育の原点に立ち返り、「教師の目」に着目します。子供を毎日見ている教師の強みを生かして、「ちょっとした変化」や「小さな成長」に目を向け、その気付きを支援に活用する方法としての「スクリーニング」を紹介します。

「スクリーニング」とは

子供たちの日々の様子を複数の教師の目で確認していくことで、リスクの可能性のある子供を洗い出し、適切な対応につなげられるようにすることです。

1 「スクリーニング」の効果

【効果1】すべての子供を見つめることができる



個別の課題が認知されている子供

欠席の増加や生活アンケートの記述、保護者からの相談等をきっかけに、個別の課題が認知された場合は、学年会議等で情報が共有され、対策組織の会議やケース会議等につなげることができます。

「ちょっとした変化」や「小さな成長」のある子供

子供の訴えや相談等がない場合でも、「スクリーニング」を行うことで、一人一人の「教師の目」を通した気付きを共有し、子供の「ちょっとした変化」や「小さな成長」を見つめることができます。

【効果2】「教師の目」と「チーム力」が強化される

「教師の目」の強化

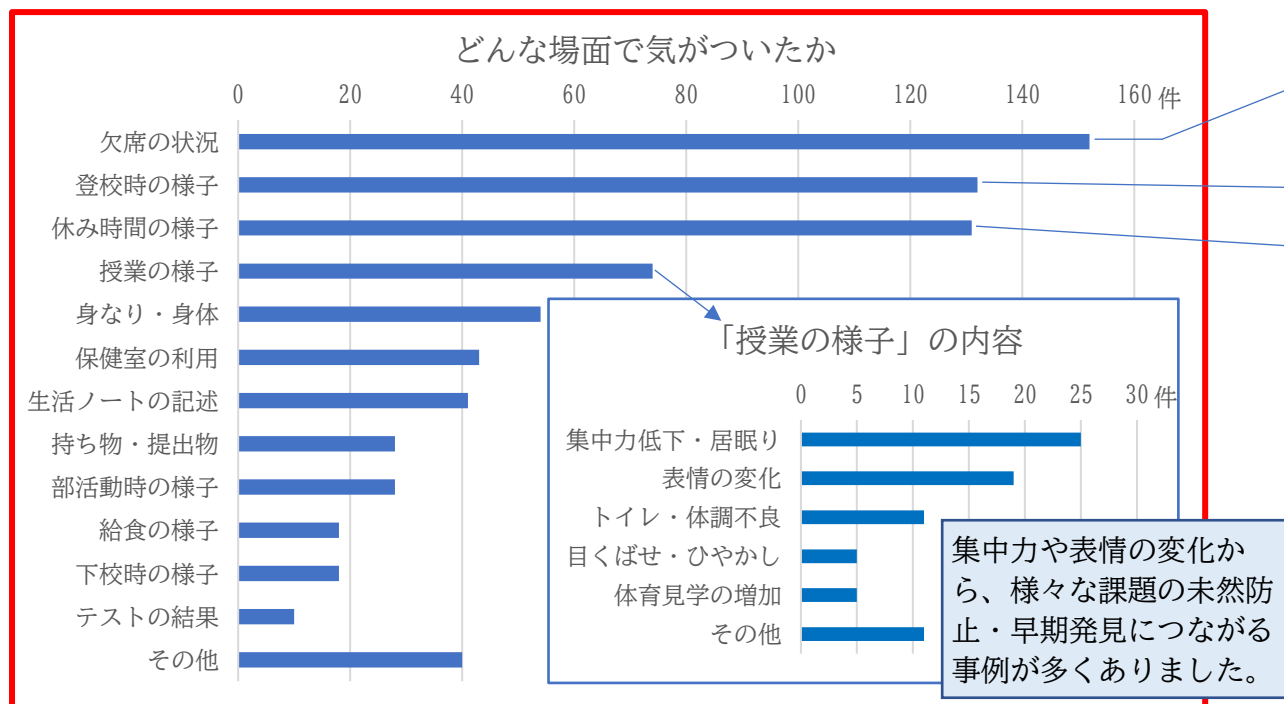
一人一人の子供を思い浮かべながら「スクリーニング」を行うことで、子供を見る「教師の目」が養われます。さらに、「スクリーニング」を通して情報を共有することで、先輩や同僚がどのような場面で、どのような変化を見ているかを学ぶことができます。

「チーム力」の強化

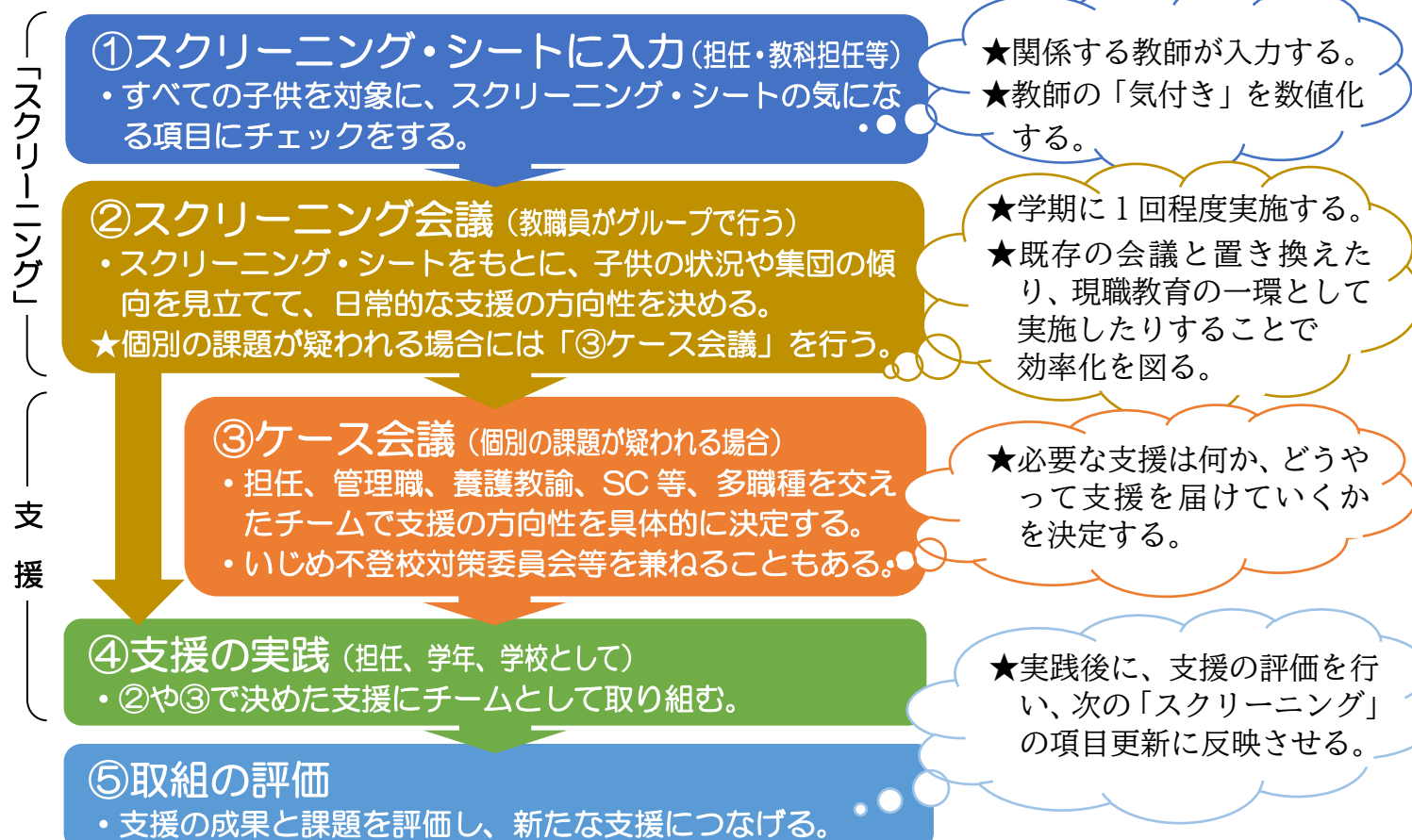
スクリーニング・シートを持ち寄って、それぞれの視点による情報を共有することにより、チームとしての対応をより効果的に行えるようになります。また、互いの気付きを共有し、助言し合ったり、協力したりするなど、教師の同僚性を高めることができます。

2 未然防止・早期発見につながった教師の目

スクリーニング・シートに並んだ項目は、教師が子供を見る視点であると言えます。令和5年度児童生徒支援加配教員研修会において、約150人の参加者から約700例の「子供の様子を見つめることで、未然防止・早期発見につながった好事例」が報告されました。これを次のように分類しましたので、スクリーニング・シートの項目を設定する際の参考としてください。



3 「スクリーニング」にもとづく支援の手順



4 スクリーニング・シートの工夫

スクリーニング・シート（案）

1年 番号	氏名	成績（学年成績担当）										欠席等（養護教諭）				変化や違和感（学級担任＋教科担任等）										総合				
		5科テスト点					9科評定					欠席 理由	遅刻 （日）	早退 （日）	保健室 入室 回	欠席 理由	登校時	授業	休み 時間	給食	身なり 身体	生活 ノート	持ち物 提出物	部活動	その他					
		1学期中	2学期中	3学期中	学年末	1学期中	2学期中	3学期中	1学期中	2学期中	3学期中																			
1101	〇〇 〇〇	375	380	200	230		32	26				12	10		10		1	2			2									10
1102	□□ □□	305	298	288	299		27	26					1	1	2		2	2	1						●	●		1		4
1103	△△ △△	68	110	70	60		13	12				26	18	10	26		2	2	2	1	2	1	2							21
1104		テストや通知表、健康観察や出席簿等のデータを連携させて、入力時間を短縮するなどの工夫があるとよいでしょう。										学級担任、教科担任等が入力する。変化や違和感を感じた場合には、数字のみ入力します。説明が必要な場合は、会議で補足します。																		
1105																														
1106																														
1107																														
1108																														
1109																														
1110																														
1111																														
1112																														
1113																														
1114																														
1115																														
1116																														
1117																														
1118																														
1119																														
1120																														
1121																														
1122																														

【各項目の視点例】
時間や場面を軸にして、変化や違和感をどこで気づいたかといった視点で項目を決めています。こうすることで、記入者も「いつ」を意識して項目を選び、「変化や違和感の大きさ」を数字で入力することとなります。こうすることで、入力の意図が統一されるとともに、効率化も図れるのではと考えています。

欠席理由・・・欠席や遅刻、早退等の理由に違和感がある、特定日に欠席をする
登校時・・・登校時刻の変化、通学仲間の変化、登校時の挨拶、登校直後の体調不良
授業・・・集中力や意欲の変化、発言の変化、学習班の変化、周囲の反応、トイレに行く、体育の見学
休み時間・・・一人で過ごす、仲間の変化、遊ぶ内容の変化、会話の内容、トイレにこもる、教員との関わりの変化
給食・・・食べなくなる、異常に食べるようになる、空腹の訴え
身なり・身体・・・季節外れの長袖、リストバンド、包帯、汚れ、ニオイ、けが、絆創膏、隠すしぐさ、頭髪の乱れ
生活ノート・・・記述内容、記述量の変化、提出状況の変化、文字の乱れ
持ち物・提出物・・・未提出や忘れの増加や変化、取組内容の変化
部活動・・・帰りの時間になかなか部活動に行かない、遅刻や欠席、意欲の低下


スクリーニング・シート（案）はこちらからダウンロードできます。

※5科テスト点は100点未満もしくは前回より50点低下で「1点」
※9科評定は18未満もしくは前回より5点低下で「1点」
※欠席・遅刻・早退保健室入室数は5回以上で「1点」
※変化や違和感 2点：大変気になる 1点：やや気になる
●：小さな成長や頑張っている（点数なし）

【スクリーニング・シート（案）について】

この案は「変化や違和感」欄を、登校時や授業、休み時間といった場面に分けています。これは、学校生活の様々な場面で子供の「ちょっとした変化」や「小さな成長」に気付こうとしているからです。このほかに、例えば、いじめ等の特定の課題を見つけようとする場合は、人間関係を問う項目を入れるというように、学校の実態に合わせて項目を工夫することも大切です。

個別の課題が認知されている子供は「総合点」が高くなりますが、比較的「総合点」が低い、個別の課題がまだ十分に認知されていない子供に着目して、スクリーニング会議を行うとよいでしょう。